

広島県呉市 中心市街地やバイオマス技術について視察

バイオマス発電



同じく呉市の中国木材株式会社バイオマス発電施設も見学させていただきました。製材過程で出る木の皮、オガクズなどをボイラーで焼却、発電に利用しています。以前は産廃として処分していたものを再利用することにしたのですが、工場の消費電力をまかなうだけでは、夜は中国電力に売電して、利益もあげていきます。

発電出力	5,300KW
蒸発量	39,000kg/h
ボイラ形式	N-120型 タクマ木質バイオマス焚 流動層燃焼ボイラ

バイオマス研究センター

ガス化と発酵の二つの方式でバイオエタノールの精製をしています。木質系の廃棄物や雑木、剪定枝でも利用可能です。実証化するためには、それなりの規模のプラント建設が必要ですが、石油資源が限りある中で、有望な技術です。製紙工場など、木質系の素材を多く使う業界などで、実用化することが可能とのことでした。



呉市の産総研中国バイオマス研究センターを視察しました。ここに木材チップを原料にガソリン・軽油などのエタノール類の精製を行う実証プラントがあります。

山口市

空き店舗・スーパー跡地を活用して多様な施策を展開

北大通の地盤低下が心配されていますが、参考になるのが山口市の中心市街地活性化策です。一足先に計画を策定、すでに国の認可も受け、事業化を進めています。二つの点が大変勉強になりました。ひとつは商店街が、覚悟をもって、事業に取り組んでいます。スーパー跡地を市が取得、その上に商店街が商業・複合施設を建設しています。7億近い事業費を商店街が負担しています。もうひとつは、空き店舗を使ってNPO法人などが中心になって、高齢者や障がい者の交流サロン、市民活動の交流拠点、「つどいの広場」を含む子育て支援施設(写真のことごとく)、産直販売所などを旺盛に展開していることです。この事業なら、釧路市でもすぐ応用できるのではないのでしょうか。



村上かずしげ通信 09/11/8
発行 村上和繁 23-5212

北九州市役所に 地産地消推進課

北九州市は、全国でもめずらしい「地産地消推進課」が市役所にあります。この課が中心となつて、地元農水産品の普及を図っています。とくに地元野菜の普及について。契約農家との間に、価格が暴落した場合に一定額の価格補償を行う制度をもち、市が一定額を拠出しています。こうしたことで農家は異常気象などを心配せずに地元野菜の生産ができることでした。

